

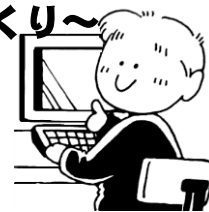
# 教育センターフォーラム 発表テーマ及び概要

## 第1分科会 (3F セミナー301号室) ①到達目標と評価 (外国語活動)

～バックワードデザインの授業づくり～

／②教材開発 (外国語活動)

～「発信力」を高めるための教材づくり～



### 【1-1】① 小中連携を意識した“Can do リスト”作成にむけての取り組み

小学校 言語教育部門所員

「小中連携っていわれても何からすればいいの？」そんな悩みをもとに、外国語活動でどんな力をつけて中学校にバトンタッチすることが望ましいのか、中学校英語教員へのアンケートの回答をもとに“Can do リスト”を作成した。楽しいだけでなく、「できる感」を高め、中学校につながるような授業づくりとは。第五学年での授業実践を踏まえながら報告する。

### 【1-2】① めあてとふりかえりを大切に！バックワードデザインと小学校版 Can do リスト

太田小学校 言語教育部門所員

本校では、バックワードデザインの授業計画に取り組んできたが、今年度はさらに一時間毎に明確な目標を設定し、めあてとふりかえりを大切にしたい授業から、いかに評価につなげるかを重点課題として取り組んだ。評価を意識した授業と、小学校版 Can do リスト作成について報告する。

### 【1-3】② 小中連携を意識した“北中外国語活動スタンダード”作成にむけての取り組みと交流

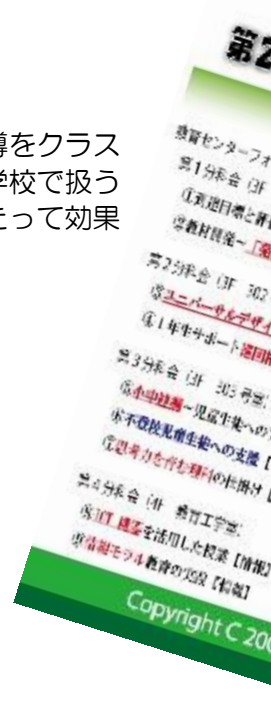
小学校 言語教育部門所員

北中ブロックの外国語担当者が定期的に集まり、北中ブロックの外国語活動で共通して使える教材づくりを行った。北中連携担当者が3小学校の外国語活動を授業参観し、出前授業も行った。小中連携の取組と共通教材の紹介をする。

### 【1-4】② 小中・小小連携を目指した外国語活動～帯活動と NET の活用～

中学校 言語教育部門所員

中学校教員による小学校外国語活動専科として、同中学校区3小学校の5、6年生の指導をクラス担任とともに行っている。子どもたちが中学校の学習へスムーズに移行できるよう、中学校で扱う教材などを「帯活動」として取り入れている。その実践報告に併せて、教材づくりにあたって効果的であった「NETの活用」について紹介する。



## 第2分科会（3F302号室） ③ユニバーサルデザインの視点での授業づくり と通級指導教室の実践 ／④1年生サポート巡回相談実施報告

### 【2-1】③ ユニバーサルデザインの環境設定と授業づくり

小学校 支援教育部門所員

#### （1）畑田小学校での実践

「ユニバーサルデザインの授業づくりをめざして」

どの子どもよりよく理解できる授業、たくさんのチャンスがあり学びを深める授業とはどのようなものか、様々な課題のある児童が楽しく参加できる授業はどうあるべきか。それを妨げているものは何か。ユニバーサルデザインについて、研究授業や日々の実践を通して考えてきた。環境づくりから具体的な授業実践まで、今年度の研究の概要を紹介する。

#### （2）玉櫛小学校での取り組み

「個別支援で支える取り組み」

それぞれの子どもが学習活動に参加している実感・達成感を持つための方策の一つとして、個別の支援を必要とする児童のために、担任・保護者・支援コーディネーター・関わりのある職員・支援サポーター・専門支援員・SC・教育センターなどと、連携して取り組む実践例を紹介する。

### 【2-2】③ ユニバーサルデザインの視点での授業づくり 中学校からの実践報告

中学校 支援教育部門所員

#### （1）豊川中学校での取り組み

「すべての子どもが学びに参加できる授業づくり」

～ユニバーサルデザインの視点を添えて～

だれもがわかる・できる授業をめざし、ユニバーサルな視点での授業づくりの必要性を感じたことから実践してきた取り組みを紹介する。

#### （2）養精中学校での取り組み

「個別の支援を必要とする生徒の正しい理解と適切な指導

～できることから、みんなでできる授業づくり～

研究協力校初年度に交流した、ユニバーサルデザインの視点での授業をさらに広め、更に個別の配慮が必要な生徒に対する必要な手立てについて、少しずつではあるが実践してきたことを紹介する。

### 【2-3】④ 1年生サポート巡回相談～ひらがな到達度チェックより～

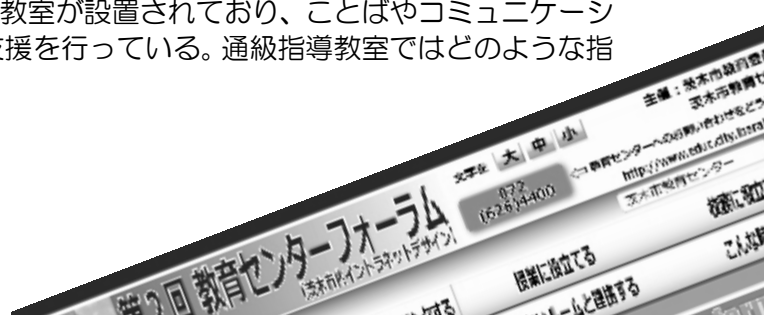
教育センター巡回相談員

読み書きが苦手な児童は、小学校に入ってまずひらがなの習得につまずくことが多く見られる。そこで、1年生サポート巡回相談で実施したひらがな到達度チェックをもとに1年生のひらがなの習得状況の報告をする。また、そこから考えられる効果的なひらがな指導について提案する。

### 【2-4】③ 通級指導教室での取り組みと授業実践

小・中学校 支援教育部門所員

茨木市には、小学校5校、中学校1校に通級指導教室が設置されており、ことばやコミュニケーションにつまずきのある児童・生徒を対象に指導・支援を行っている。通級指導教室ではどのような指導を行っているのか報告・紹介をする。



## 第3分科会（3F303号室）⑤小中連携～児童生徒へのアンケート結果から～ ／⑥不登校児童生徒への支援 ／⑦思考力を育む理科の仕掛け

### 【3-1】⑤ 小中連携を進めるために～児童生徒へのアンケート結果から考える～

調査・研究部門所員

茨木っ子ジャンプアッププラン 28 の中で挙げられている保幼小中連携について、今回、小中連携にスポットを当てて考えていく。児童・生徒へアンケートを実施し、その結果から小中連携をすすめる上でのポイントを明らかにしていく。

### 【3-2】⑥ 視点を変えると子どもが見える！不登校児童生徒へのアセスメント

教育センター・不登校児童生徒支援室「ふれあいルーム」

「不登校の子は〇〇だから…。」「なんで不登校の子は〇〇なの？」そんな一般的な子どもへの考え方や疑問も、視点を少し変えると、子どもの本当の気持ちが見えてくる。ふれあいルームに通う子どもを毎日見ている経験から、不登校の子どもへの心の動きと、アセスメントについて発表する。明日から不登校の子どもへの心の捉え方が変わるかもしれない。

### 【3-3】⑦ 分析・解釈シートを用いた思考力を育む授業

中学校 理科教育部門所員

「海水から塩を取り出す方法」（小学校）、「梅干しから塩を取り出す実験」（中学校）を例に、今年度、理科所員が取り組んだ分析・解釈シートを用いた思考力を育むための授業実践を紹介する。また、目標に準拠した評価の本格導入に向け、アンカーシートを用いた評価の奥深さについても紹介する。

### 【3-4】⑦ 「備えあれば…実りあり！」

小学校 理科教育部門所員

「『備えあれば憂いなし』とはよく言ったもので、何事にも当てはまる故事成語である。それは、理科教育においても例に漏れることはない。しかし、「備え」を実験の準備などに留まらず、「理科室の環境整備や児童の興味関心を沸かせる為の仕掛け」と考えるならば、理科教育では「備え」こそ肝心要であり、「憂いなし」どころか大いに「実りある」展開になりうる。発表では「備え」についてのアイデアを述べたい。

## 第4分科会（4F 教育工学室）⑧ICT機器を活用した授業 ／⑨情報モラル教育の実践

### 【4-1】⑧ 普通教室でのタブレット PC 活用事例

小学校 情報教育部門所員

今年度の夏より、中学校の情報教室に新規導入されたタブレット PC。来年度以降、小学校にも同様の機器が配備されるであろう。そこで、タブレット PC を普通教室での授業作りにどのように活かせるか、他校に先駆けて実践した。活用事例や、実際に使ってみて気づいた点などを発表する。

## 【4-2】⑨ 学校全体で取り組む情報モラル教育

小学校 情報教育部門所員

近年、情報モラルに関連した問題が増えている。中でも、インターネットやゲーム等への依存が子どもたちの学校生活に影響している。情報社会に的確な判断ができない児童・生徒を守り、危ない目にあわせないために、学校全体で系統立てて取り組む情報モラル教育の実践を紹介する。

## 【4-3】⑧ 彩都西小学校における6年間 情報教育カリキュラムの実践について

小学校 情報教育部門所員

彩都西小学校では、校内体制（情報部会）として、各学年の情報教育に係る実践を体系的に実践し記録を続けている。この数年間 各教員の実践を共有し、各学年での情報教育にいかす過程を紹介する。また、校内で研究してきた年間指導計画についても紹介する。

## 【4-4】⑧ 新規導入のICT機器 活用例（デジタル教科書・タブレットPC・eライブラリの活用）

中学校 情報教育部門所員

今年度9月、全中学校に配備されたデジタル教科書、タブレットPCについて、その実践を紹介する。また、導入2年目となるeライブラリ（新しいばらきっ子スタディ）を活用した校内での学力保障の取組についても紹介したい。

